

牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事  
(プレファブユニット工事)

図 面 リ ス ト			
図 番 号	図 面 名	図 番 号	図 面 名
PA-00	表紙・図面リスト	PA-14	特記仕様書(建築構造)その1
PA-01	特記仕様書(建築新営)その1	PA-15	特記仕様書(建築構造)その2
PA-02	特記仕様書(建築新営)その2	PA-16	特記仕様書(建築構造)その3
PA-03	特記仕様書(建築新営)その3	PA-17	特記仕様書(建築構造)その4
PA-04	特記仕様書(建築新営)その4	PA-18	配置図・附近見取図
PA-05	特記仕様書(建築新営)その5	PA-19	現況平面図・改修平面図
PA-06	特記仕様書(建築新営)その6	PA-20	ﾌﾟﾚﾌｧﾌﾞﾚｯﾄ図
PA-07	特記仕様書(建築新営)その7	PA-21	矩計図・横断詳細図・伏図・軸組図・部材リスト
PA-08	特記仕様書(建築新営)その8	PA-22	基礎伏図・基礎詳細図
PA-09	特記仕様書(建築新営)その9	PE-01	電気設備 現況平面図・改修平面図
PA-10	特記仕様書(建築新営)その10		
PA-11	特記仕様書(建築新営)その11		
PA-12	特記仕様書(建築新営)その12		
PA-13	特記仕様書(建築新営)その13		

	設 計 変 更 年 月 日							工 事 名	牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)	縮 尺	一 — 一		図 面 番 号
	1 回 年 月 日							図 面 名	表 紙 ・ 図 面 リ ス ト	設 計	年 月	1 級 建 築 士 登 録 第 号	PA 00
	2 回 年 月 日												
	3 回 年 月 日												

牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事（プレファブユニット工事）			特記仕様書																																											
Ⅰ 工事概要																																														
1	工事場所	小城市牛津町																																												
2	敷地面積	24,098.44㎡																																												
3	地域地区	都市計画区域（ <input checked="" type="radio"/> 内 <input type="radio"/> 外）準都市計画区域（ <input type="radio"/> 内 <input type="radio"/> 外）用途地域等（ <input type="radio"/> 指定なし） （ <input type="radio"/> 防火地域・ <input type="radio"/> 準防火地域 <input checked="" type="radio"/> 法22条区域・ <input type="radio"/> 指定なし）																																												
4	建物用途	部室																																												
5	建物概要	<table><thead><tr><th>建物名称</th><th>構造</th><th>階数</th><th>延べ面積（㎡）</th><th>建築面積（㎡）</th><th>建築基準法別表第1区分</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td>乾燥・更衣室</td><td>S</td><td>1</td><td>25.99</td><td>25.99</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			建物名称	構造	階数	延べ面積（㎡）	建築面積（㎡）	建築基準法別表第1区分	備考	乾燥・更衣室	S	1	25.99	25.99																														
建物名称	構造	階数	延べ面積（㎡）	建築面積（㎡）	建築基準法別表第1区分	備考																																								
乾燥・更衣室	S	1	25.99	25.99																																										
6	工事種目	プレファブユニット工事 基礎工事 木杭工事																																												
Ⅱ 建築工事仕様																																														
1	共通仕様	(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という）による。 (2) 本工事に電気設備、機械設備工事を含む場合の特記仕様書は別図による。 (3) 受注者は完了検査（中間検査を含む）には、特定行政庁（建築主事）が求める検査に必要な資料等（報告書等）を用意すること。																																												
2	特記仕様	(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。 ◎印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ◎印と◎印の付いた場合は、ともに適用する。 (3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図、又は当該表を示す。 (4) 印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。判断の基準は「環境物品の調達の推進に関する基本方針（令和5年2月版）」（環境省のホームページからダウンロード可能）による。 (5) 関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応について、監督職員と協議すること。 (6) 形状寸法の単位は、特記無き限りミリメートルとする。																																												
章	項目	特記事項																																												
①	① 適用基準等	※建築工事標準詳細図（令和4年版） ・構内舗装・排水設計基準（平成31年版） ・擁壁設計標準図（平成12年版） ・敷地調査共通仕様書（令和4年改定） ・ユニバーサルデザイン施設整備基準（佐賀県福祉のまちづくり条例 施設整備マニュアル） ・施設におけるわかりやすいユニバーサルデザインのサイン（佐賀県県土づくり本部建築住宅課発行） ・土木工事等共通仕様書（佐賀県県土整備部） ・建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）																																												
	② 発生材の処理	・発注者に引渡しを要するもの（1.3.11） （ ・金属類 ・PCB含有物 ・ ）  特定建設資材の分別解体等及び再資源化等 ・本工事は特定建設資材を用いた建築物等に係る解体工事又はその施工に特定資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に係る法律」（平成12年5月31日法第104号。以下「建設リサイクル法」という）施行令又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適切な措置を講ずる。 工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、予定した条件によりがたい場合は、監督職員と協議する。																																												
③	品質計画																																													
	設計GL	※図示による <input checked="" type="radio"/> 現状地盤の平均高さとし、監督職員の指示による																																												
⑤	設備工事との取り合い	(1.1.7) 別表-1による 設備機器の設置、取合い等が検討のできる施工図を提出し、監督職員の承諾を受ける																																												
⑥	材料の品質等	(1.4.2) 同等以上の材料・機材等の使用 本工事に使用する材料・機材等は設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。 ただし、製造業者が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。 材料・機材等の品質及び性能 本工事に於いて別表-2に示す材料を使用する場合の材料・機材等の製造業者等は次の(1)から(6)すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける 1) 品質及び性能に関する試験データを整備していること 2) 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること 3) 安定的な供給が可能であること 4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること 6) 販売、保守等の営業体制を整えていること																																												
共通事項		工事名	牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事（プレファブユニット工事）																																											
		図面名	特記仕様書（建築新営）その1																																											
		設計	令和7年10月																																											
		縮尺	—																																											
		図番号	PA—01																																											

⑦ 環境への配慮	(1.4.1) 本工事の建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1)から4)を満たすものとする 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネ、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリ樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩材、断熱材、塗料、仕上塗材は、7kg/m <sup>2</sup> 以下及びVOCを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「kg/m <sup>2</sup> 以下の放散量」の区分に応じた材料を使用する 2) 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する 3) 接着剤は可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する 4) 1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、kg/m <sup>2</sup> 以下、7kg/m <sup>2</sup> 以下及びVOCを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする  また、設計図書に規定する「kg/m <sup>2</sup> 以下の放散量」は、次の通りとする 規制対象外 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種kg/m <sup>2</sup> 以下発散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 第三種品 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種kg/m <sup>2</sup> 以下発散建築材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通省が含有建材 本工事に使用する材料については、7kg/m <sup>2</sup> 以下を含有しないものとする 公共工事の配慮事項 グリーン購入法（平成12年法律第100号）に基づく環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項に留意すること （基本方針一部抜粋）2.1.公共工事の【配慮事項】資材の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること																																										
	8 化学物質の濃度測定	(1.5.9) ・行う ・行わない																																									
9 特別な材料の工法及び新工法	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法及び新工法は、以下のいずれかによるものとし、監督職員と協議すること ① NETISで認定された工法 ② 公的機関の実験等により確認された工法																																										
10 技能士	(1.5.2) ※本工事に必要な作業及びその作業に従事する職種について適用する。 ただし、これにより難しい場合は監督職員と協議すること。 ※技能士の資格を証明する資料を監督職員に提出すること。 <table><thead><tr><th>適用工事種類</th><th>職 種</th><th>技能検定作業</th></tr></thead><tbody><tr><td>仮設工事</td><td>とび</td><td>・とび作業</td></tr><tr><td>鉄筋工事</td><td>鉄筋施工</td><td>・鉄筋組立作業</td></tr><tr><td>コンクリート工事</td><td>型枠施工</td><td>・型枠工事作業</td></tr><tr><td>防水工事</td><td>防水施工</td><td>・7kg/m<sup>2</sup>防水工事作業 ・ウレタン系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・シーリング防水工事作業</td></tr><tr><td>木工事</td><td>建築大工</td><td>・大工工事作業</td></tr><tr><td>屋根及びとい工事</td><td>建築板金</td><td>・内外装板金作業</td></tr><tr><td>金属工事</td><td>内装仕上げ施工</td><td>・鋼製下地工事作業</td></tr><tr><td>左官工事</td><td>左官</td><td>・左官作業</td></tr><tr><td>建具工事</td><td>建具製作</td><td>・木製建具手加工作業 ・木製建具機械加工作業 ・ガラス工事作業</td></tr><tr><td>塗装工事</td><td>塗装</td><td>・建築塗装作業</td></tr><tr><td>内装工事</td><td>内装仕上げ施工</td><td>・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・表具作業 ・壁紙作業 ・畳製作作業</td></tr><tr><td>排水工事</td><td>配管</td><td>・建築配管作業</td></tr><tr><td>植栽工事</td><td>造園</td><td>・造園工事作業</td></tr></tbody></table> ※建設機械を使用する場合は、排出ガス対策型建設機械等を使用すること ※建設工事に伴う騒音振動対策技術指針に基づき、低騒音型・低振動型建設機械を使用すること ※建設機械を使用しないときは、エンジンを停止するなど建設機械の稼働時間の抑制に努めること ※そのほか土木工事等共通仕様書（佐賀県県土整備部）「第1章第41節 環境対策」による	適用工事種類	職 種	技能検定作業	仮設工事	とび	・とび作業	鉄筋工事	鉄筋施工	・鉄筋組立作業	コンクリート工事	型枠施工	・型枠工事作業	防水工事	防水施工	・7kg/m <sup>2</sup> 防水工事作業 ・ウレタン系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・シーリング防水工事作業	木工事	建築大工	・大工工事作業	屋根及びとい工事	建築板金	・内外装板金作業	金属工事	内装仕上げ施工	・鋼製下地工事作業	左官工事	左官	・左官作業	建具工事	建具製作	・木製建具手加工作業 ・木製建具機械加工作業 ・ガラス工事作業	塗装工事	塗装	・建築塗装作業	内装工事	内装仕上げ施工	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・表具作業 ・壁紙作業 ・畳製作作業	排水工事	配管	・建築配管作業	植栽工事	造園	・造園工事作業
適用工事種類	職 種	技能検定作業																																									
仮設工事	とび	・とび作業																																									
鉄筋工事	鉄筋施工	・鉄筋組立作業																																									
コンクリート工事	型枠施工	・型枠工事作業																																									
防水工事	防水施工	・7kg/m <sup>2</sup> 防水工事作業 ・ウレタン系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・シーリング防水工事作業																																									
木工事	建築大工	・大工工事作業																																									
屋根及びとい工事	建築板金	・内外装板金作業																																									
金属工事	内装仕上げ施工	・鋼製下地工事作業																																									
左官工事	左官	・左官作業																																									
建具工事	建具製作	・木製建具手加工作業 ・木製建具機械加工作業 ・ガラス工事作業																																									
塗装工事	塗装	・建築塗装作業																																									
内装工事	内装仕上げ施工	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・表具作業 ・壁紙作業 ・畳製作作業																																									
排水工事	配管	・建築配管作業																																									
植栽工事	造園	・造園工事作業																																									

② 仮設工事	1 足場その他	(2.2.4) ※定置する足場、作業構台等は、関連工事等の関係者に無償で使用する																																																						
	2 監督員事務所	(2.3.1) ・設ける ※設けない 面積規模（ ）㎡程度 監督職員スペースと工事監理業務の職員スペースは間仕切り壁等で仕切る 監督職員事務所の仕上げ <table><thead><tr><th>部位等</th><th>仕上げ</th></tr></thead><tbody><tr><td>床</td><td>合板張り又はビニル床シート貼り</td></tr><tr><td>内壁、天井</td><td>合板又は石膏ボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り</td></tr><tr><td>屋根</td><td>塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り、調合ペイント塗り</td></tr></tbody></table> ※現場事務所内に監督職員閲覧スペースを設け、施工計画書等を備えること	部位等	仕上げ	床	合板張り又はビニル床シート貼り	内壁、天井	合板又は石膏ボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り	屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り、調合ペイント塗り																																														
部位等	仕上げ																																																							
床	合板張り又はビニル床シート貼り																																																							
内壁、天井	合板又は石膏ボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り																																																							
屋根	塗装溶融亜鉛めっき鋼板張り又は鉄板張り、調合ペイント塗り																																																							
③ 土工事	③ 工事用水	構内既存の施設 ※利用できる（※有償 ・無償） ・利用できない																																																						
	④ 工事用電力	構内既存の施設 ・利用できる（※有償 ・無償） ※利用できない																																																						
	5 指定仮設等	指定仮設の範囲（種類、箇所、規格、数量を明示） ※図示 上記に該当しない仮設については、全て任意仮設とし、請負者の創意工夫により施工すること。施工にあたっては、施工計画書に工法・数量等を明示し、監督職員に提出すること。 なお、任意仮設のため、仮設工法の変更に伴う数量変更や工期変更は行わない。																																																						
4 5 7	① 埋戻し及び盛土	種別 ・A種 <input checked="" type="radio"/> B種 ・C種 ・D種 (3.2.3) (表3.2.1) C種の場合 (発生場所： ) (連絡先： ) (運搬： ・発生原因者側 ・本工事 km )																																																						
	② 建設発生土の処理	・構外指示の場所 受け入れ施設（ ） 受け入れ場所での処理（ ・敷きならし ※たい積 ） 搬出距離（ ～10 ）km 処分費 ・有償 ・無償 上記に示す受け入れ場所・距離は参考であり、実施にあたっては監督職員と協議のうえ決定する ・構内指示の場所 ※図示 ・（ ） ・処理方法 （ ・敷きならし ※たい積 ）																																																						
8	1 補強コンクリートブロック造	特記仕様書（構造関係による） 4章 地業工事 5章 鉄筋工事 6章 コンクリート工事 7章 鉄骨工事																																																						
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント工事	2 コンクリートブロック・コンクリート造	ブロックの種類等 (8.2.2～5.8) <table><thead><tr><th>断面形状及び圧縮強さによる区分</th><th>正味厚さ</th><th>セメント呼び寸法</th><th>化粧の有無</th><th>適用箇所</th><th>備考</th></tr><tr><th></th><th>長さ</th><th>高さ</th><th></th><th></th><th></th></tr></thead><tbody><tr><td>・空洞ブロックC(16)</td><td>・120 ・150</td><td>※400 ・</td><td>※200 ・</td><td>・無 ・有</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td></td></tr></tbody></table> 各部配筋 ※図示 ・ モルタルの割合（容積比） ・標準仕様書(表8.2.1)による ・セメント（ ）：砂（ ） 目地仕上げ ・押し目地仕上げ ・化粧目地仕上げ モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲 ・図示 ・  ブロックの種類等 (8.3.2～4) <table><thead><tr><th>断面形状及び圧縮強さによる区分</th><th>正味厚さ</th><th>セメント呼び寸法</th><th>化粧の有無</th><th>(表8.3.1)以外の適用箇所</th><th>備考</th></tr><tr><th></th><th>長さ</th><th>高さ</th><th></th><th></th><th></th></tr></thead><tbody><tr><td>・空洞ブロックC(16)</td><td>・120 ・150</td><td>※400 ・</td><td>※200 ・</td><td>・無 ・有</td><td></td></tr><tr><td>・空洞ブロック20</td><td>・120 ・150</td><td>※400 ・</td><td>※200 ・</td><td>・無 ・有</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> 塀の厚さ 塀の高さが2m以下 ・120 ・ 塀の高さが2mを超え ・150 ・ 壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状 ※図示 ・ 各部の配筋 ※図示 ・ 化粧目地の有無 ・無 ・有 工法 コンクリートブロック積み壁の積高さは、壁厚の25倍かつ3500以内とし、その他の部分は同厚の鉄筋コンクリート造垂壁とする	断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	セメント呼び寸法	化粧の有無	適用箇所	備考		長さ	高さ				・空洞ブロックC(16)	・120 ・150	※400 ・	※200 ・	・無 ・有		・	・	・	・	・		断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	セメント呼び寸法	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考		長さ	高さ				・空洞ブロックC(16)	・120 ・150	※400 ・	※200 ・	・無 ・有		・空洞ブロック20	・120 ・150	※400 ・	※200 ・	・無 ・有		・					
	断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	セメント呼び寸法	化粧の有無	適用箇所	備考																																																		
	長さ	高さ																																																						
・空洞ブロックC(16)	・120 ・150	※400 ・	※200 ・	・無 ・有																																																				
・	・	・	・	・																																																				
断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ	セメント呼び寸法	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考																																																			
	長さ	高さ																																																						
・空洞ブロックC(16)	・120 ・150	※400 ・	※200 ・	・無 ・有																																																				
・空洞ブロック20	・120 ・150	※400 ・	※200 ・	・無 ・有																																																				
・																																																								

④

地業工事

1

地盤調査の結果

調査位置、柱状図、地層構成、地下水位  
・ 図示による ( )  
・

2

支持地盤

・ 杭基礎 (3.2.1) (4.2.4) (4.3.4、5) (4.4.4) (4.5.5、6)  
支持地盤の種類及び位置 (基礎ぐいの先端の位置含む)  
・ 図示による ( )  
・  
  
・ 直接基礎  
支持地盤の種類及び位置 (基礎底部の位置含む)  
・ 図示による ( )  
・  
  
長期設計支持力度  
・ ( ) kN/m2  
  
試験掘 (根切り底) による支持地盤の確認 (3.2.1)  
・ 行う 位置等は図示による ( )  
・ 行わない  
  
・ 地盤の載荷試験 (4.2.4)  
・ 行う 試験の位置、方法等は図示による ( )  
・ 行わない

3

既製コンクリート杭地業

種類 (4.2.2) (4.3.1) (4.3.3) ~ (4.3.6) (4.3.8)  
・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭)  
・ 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭)  
SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490  
・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭)  
・  
  
試験掘  
・ あり 孔径はオガー径とする  
位置等は図示による ( )  
・ なし  
  
(4.2.2) (4.3.3)  
杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分 (種別)、寸法、継手の箇所数等  

	種類 種別	コンクリート強度 N/mm2	杭径 mm	杭長 mm	継手数	長期設計 支持力 kN/本
試験杭	上杭 中杭 下杭					
本杭	上杭 中杭 下杭					

  
試験杭の施工 ※ 本杭の施工に先立ち行う (4.2.2)  
・  
  
試験杭の位置、本数 ※ 最初の本  
・ 図示による ( ) (4.3.3)  
  
杭先端部形状  
・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形 ・  
  
施工方法 (4.3.4、5)  
・ セメント工法 (4.3.4)  
アースオーガーの支持地盤への掘削深さ  
・ 図示による  
杭の支持地盤への根入れ長さ  
・ 図示による  
杭の精度  
水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下  
・  
杭の傾斜 ・ 1/100以内  
・  
  
・ 特定埋込杭工法  
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で  
 $\alpha=250$ を採用できる工法  
図示による ( )  
・ 上記以外の特定埋込杭工法  
図示による ( )

工法  
・ プレキャストリング 拡大根固め工法  
・ 中掘り拡大根固め工法  
・  
  
杭周固定液  
・ 使用する ・ 使用しない  
  
杭の支持層への根入れ長さ  
・ 図示による ( ) ・ 評定等の評価内容による  
  
杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 評定等の評価内容による  
・  
杭の傾斜 ・ 評定等の評価内容による  
・  
  
杭継手工法 (4.3.2、6) (7.2.5)  
・ アール溶接継手  
・ 標準仕様書4.3.6による  
溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1) (2)による  
・ 図示による  
・ 機械式継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの)  
工法 ※ 評定等を受けた工法 (図 による )  
検査 ※ 評定等により定められた項目 (図 による )  
・  
施工 ※ 評定等をされた施工管理基準による  
(図 による )  
  
杭頭の処理 (4.3.8)  
・ 行う 処理方法 (切断を伴う補強方法含む)  
・ 図示による ( )  
・  
・ 行わない  
  
杭頭の中詰め材料 (4.3.8)  
※ 基礎のコンクリートと同調合のもの  
・  
  
種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 (4.2.2) (4.4.3) ~ (4.4.6)  
  
杭の種類、寸法、継手等  

	種類	コンクリート強度 N/mm2	杭径 mm	杭長 mm	継手数	長期設計 支持力 kN/本
試験杭	上杭 中杭 下杭					
本杭	上杭 中杭 下杭					

  
試験杭の施工 ※ 本杭の施工に先立ち行う  
・  
  
試験杭の位置、本数 ※ 最初の本  
・ 図示による ( )  
  
施工方法  
・ 特定埋込杭工法  
・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で  
 $\alpha=250$ を採用できる工法  
図示による ( )  
・ 上記以外の特定埋込杭工法  
図示による ( )  
  
工法  
・ プレキャストリング 拡大根固め工法  
・ 中掘り拡大根固め工法  
・ 鋼管パイルメント杭工法  
・ 回転杭工法  
  
杭の根入れ長さ  
・ 評定等の評価内容による  
・  
  
杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 評定等の評価内容による  
・  
杭の傾斜 ・ 評定等の評価内容による  
・  
  
杭の現場継手 (4.4.5)  
・ アール溶接継手  
形状 ・ JIS A 5525による  
溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.5(1) (2)による  
・ 図示による ( )  
・  
・ 機械式継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの)  
工法 ※ 評定等を受けた工法 (図 による )  
検査 ※ 評定等により定められた項目 (図 による )  
施工 ※ 評定等をされた施工管理基準による  
(図 による )  
  
杭頭の処理 (4.4.6)  
・ 行う 処理方法 (切断を伴う補強方法含む)  
・ 図示による ( )  
・  
・ 行わない  
  
杭頭の中詰め材料 (4.4.6)  
※ 基礎のコンクリートと同調合のもの  
・  
  
杭径、長さ、仕様等 ・ 図示による ( )  
・  
  
材料その他  
帯筋の加工及び組立  
・ 図示による (構造関係共通事項 (配筋標準図) 6.2帯筋 (b) (3) ④ (ロ))  
・  
鉄筋かごの補強 ※ 4.5.4(1) (イ) (c) による  
・  
鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 図示による ( )  
・  
  
組み立てた鉄筋の節ごとの継手  
・ 重ね継手  
重ね継手の長さ ・ 図示による ( )  
・  
  
主筋の基礎底盤への定着長さ ・ 図示による ( )  
・  
  
セメントの種類 (4.5.4) (6.3.1)  
・ 高炉セメントB種 6  
・  
  
コンクリートの種別 ・ A種 ・ B種 (4.5.4) (表4.5.1)  
・ 評定等の評価内容による  
  
コンクリートの設計基準強度 (F<sub>c</sub>) ( ) N/mm2 (4.5.4~6)  
  
スラング ※ 18cm ・ 21cm  
  
構造体強度補正值 (S) ・ 3N/mm2 (4.5.4)  
・ 評定等の評価内容による  
・  
  
掘削工法 (4.5.1) (4.5.5、6)  
・ アースリール工法  
安定液 ・ 使用する ・ 使用しない  
・ リバース工法  
・ オールシング工法  
孔内の水張り ・ 行う ・ 行わない  
  
併用する工法  
・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 図示による ( )  
鋼管巻き材料 ・ SKK400 ・ SKK490  
・ 拡底杭工法 図示による ( )  
安定液 ・ 使用する ・ 使用しない  
・  
  
試験杭 (4.2.2) (4.5.5、6)  
試験杭の施工 ※ 本杭の施工に先立ち行う  
・  
  
試験杭の位置、本数 ※ 最初の本 ・ 図示による ( )  
  
孔壁測定 (4.5.5、6)  
・ 行う 測定方法、測定箇所  
・ 図示による ( )  
・ 行わない  
  
杭の支持層への根入れ長さ  
・ 図示による  
・  
  
杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の1/4かつ100mm以下  
・ 評定等の評価内容による  
杭の傾斜 ・ 1/100以内  
・ 評定等の評価内容による

6

地盤改良  
(セメント系固化材を用いた工法による改良)

工法  
・ 浅層混合処理工法  
適用範囲、仕様及び計測、試験 ・ 図示による ( )  
長期設計支持力 ・ ( ) kN/m2  
・  
  
・ 深層混合処理工法  
適用範囲、仕様及び計測、試験 ・ 図示による ( )  
長期設計支持力 ・ ( 50 ) kN/m2  
・  
  
形状、支持地盤、仕様  
・ 図示による ( )  
・  
  
長期設計支持力  
・ ( ) kN/m2  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
・ 高炉セメントB種 6  
・  
  
コンクリートの設計基準強度 ( ) kN/m2  
  
構造体強度補正值 (S) ( ) kN/m2  
  
工法 ・ ( )  
仕様、範囲、計測、試験等  
・ 図示による ( )  
・  
  
材料 (4.6.2)  
※ 再生グラッサン 6  
・ 切込砂利及び切込碎石  
  
厚さ及び使用範囲 (4.6.3)  
厚さ 使用範囲  
※ 60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下  
・ 100 耐圧板  
  
コンクリートの仕様 (4.6.4) (6.14.1~3)  
※ 無筋コンクリートによる (6.14.1、6.14.2、6.14.3)  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
※ 高炉セメントB種 6  
・  
  
厚さ及び使用範囲  
厚さ 使用範囲  
※ 50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下  
・  
  
施工範囲 (4.6.2、5)  
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く)  
・  
  
材料 ・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上  
・  
  
防湿層の位置 ・ 図示による ( )  
・

7

置換コンクリート地業  
(ラップコンクリート地業)

形状、支持地盤、仕様  
・ 図示による ( )  
・  
  
長期設計支持力  
・ ( ) kN/m2  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
・ 高炉セメントB種 6  
・  
  
コンクリートの設計基準強度 ( ) kN/m2  
  
構造体強度補正值 (S) ( ) kN/m2  
  
工法 ・ ( )  
仕様、範囲、計測、試験等  
・ 図示による ( )  
・  
  
材料 (4.6.2)  
※ 再生グラッサン 6  
・ 切込砂利及び切込碎石  
  
厚さ及び使用範囲 (4.6.3)  
厚さ 使用範囲  
※ 60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下  
・ 100 耐圧板  
  
コンクリートの仕様 (4.6.4) (6.14.1~3)  
※ 無筋コンクリートによる (6.14.1、6.14.2、6.14.3)  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
※ 高炉セメントB種 6  
・  
  
厚さ及び使用範囲  
厚さ 使用範囲  
※ 50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下  
・  
  
施工範囲 (4.6.2、5)  
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く)  
・  
  
材料 ・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上  
・  
  
防湿層の位置 ・ 図示による ( )  
・

8

液状化対策

工法 ・ ( )  
仕様、範囲、計測、試験等  
・ 図示による ( )  
・  
  
材料 (4.6.2)  
※ 再生グラッサン 6  
・ 切込砂利及び切込碎石  
  
厚さ及び使用範囲 (4.6.3)  
厚さ 使用範囲  
※ 60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下  
・ 100 耐圧板  
  
コンクリートの仕様 (4.6.4) (6.14.1~3)  
※ 無筋コンクリートによる (6.14.1、6.14.2、6.14.3)  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
※ 高炉セメントB種 6  
・  
  
厚さ及び使用範囲  
厚さ 使用範囲  
※ 50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下  
・  
  
施工範囲 (4.6.2、5)  
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く)  
・  
  
材料 ・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上  
・  
  
防湿層の位置 ・ 図示による ( )  
・

9

砂利地業

工法 ・ ( )  
仕様、範囲、計測、試験等  
・ 図示による ( )  
・  
  
材料 (4.6.2)  
※ 再生グラッサン 6  
・ 切込砂利及び切込碎石  
  
厚さ及び使用範囲 (4.6.3)  
厚さ 使用範囲  
※ 60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下  
・ 100 耐圧板  
  
コンクリートの仕様 (4.6.4) (6.14.1~3)  
※ 無筋コンクリートによる (6.14.1、6.14.2、6.14.3)  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
※ 高炉セメントB種 6  
・  
  
厚さ及び使用範囲  
厚さ 使用範囲  
※ 50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下  
・  
  
施工範囲 (4.6.2、5)  
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く)  
・  
  
材料 ・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上  
・  
  
防湿層の位置 ・ 図示による ( )  
・

10

捨コンクリート地業

工法 ・ ( )  
仕様、範囲、計測、試験等  
・ 図示による ( )  
・  
  
材料 (4.6.2)  
※ 再生グラッサン 6  
・ 切込砂利及び切込碎石  
  
厚さ及び使用範囲 (4.6.3)  
厚さ 使用範囲  
※ 60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下  
・ 100 耐圧板  
  
コンクリートの仕様 (4.6.4) (6.14.1~3)  
※ 無筋コンクリートによる (6.14.1、6.14.2、6.14.3)  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
※ 高炉セメントB種 6  
・  
  
厚さ及び使用範囲  
厚さ 使用範囲  
※ 50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下  
・  
  
施工範囲 (4.6.2、5)  
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く)  
・  
  
材料 ・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上  
・  
  
防湿層の位置 ・ 図示による ( )  
・

11

床下防湿層

工法 ・ ( )  
仕様、範囲、計測、試験等  
・ 図示による ( )  
・  
  
材料 (4.6.2)  
※ 再生グラッサン 6  
・ 切込砂利及び切込碎石  
  
厚さ及び使用範囲 (4.6.3)  
厚さ 使用範囲  
※ 60 基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下  
・ 100 耐圧板  
  
コンクリートの仕様 (4.6.4) (6.14.1~3)  
※ 無筋コンクリートによる (6.14.1、6.14.2、6.14.3)  
・  
  
セメントの種類 (6.3.1)  
※ 高炉セメントB種 6  
・  
  
厚さ及び使用範囲  
厚さ 使用範囲  
※ 50 基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下  
・  
  
施工範囲 (4.6.2、5)  
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピット下を除く)  
・  
  
材料 ・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上  
・  
  
防湿層の位置 ・ 図示による ( )  
・

共通事項

工事名  
牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事（プレファブユニット工事）

図面名  
特記仕様書（建築構造）その1

縮尺  
—

設計  
令和7年10月

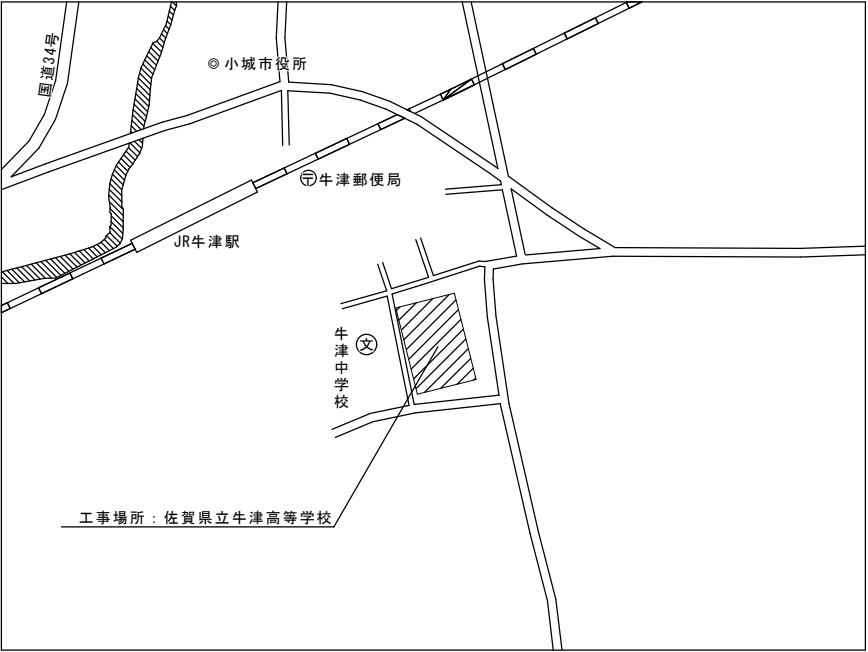
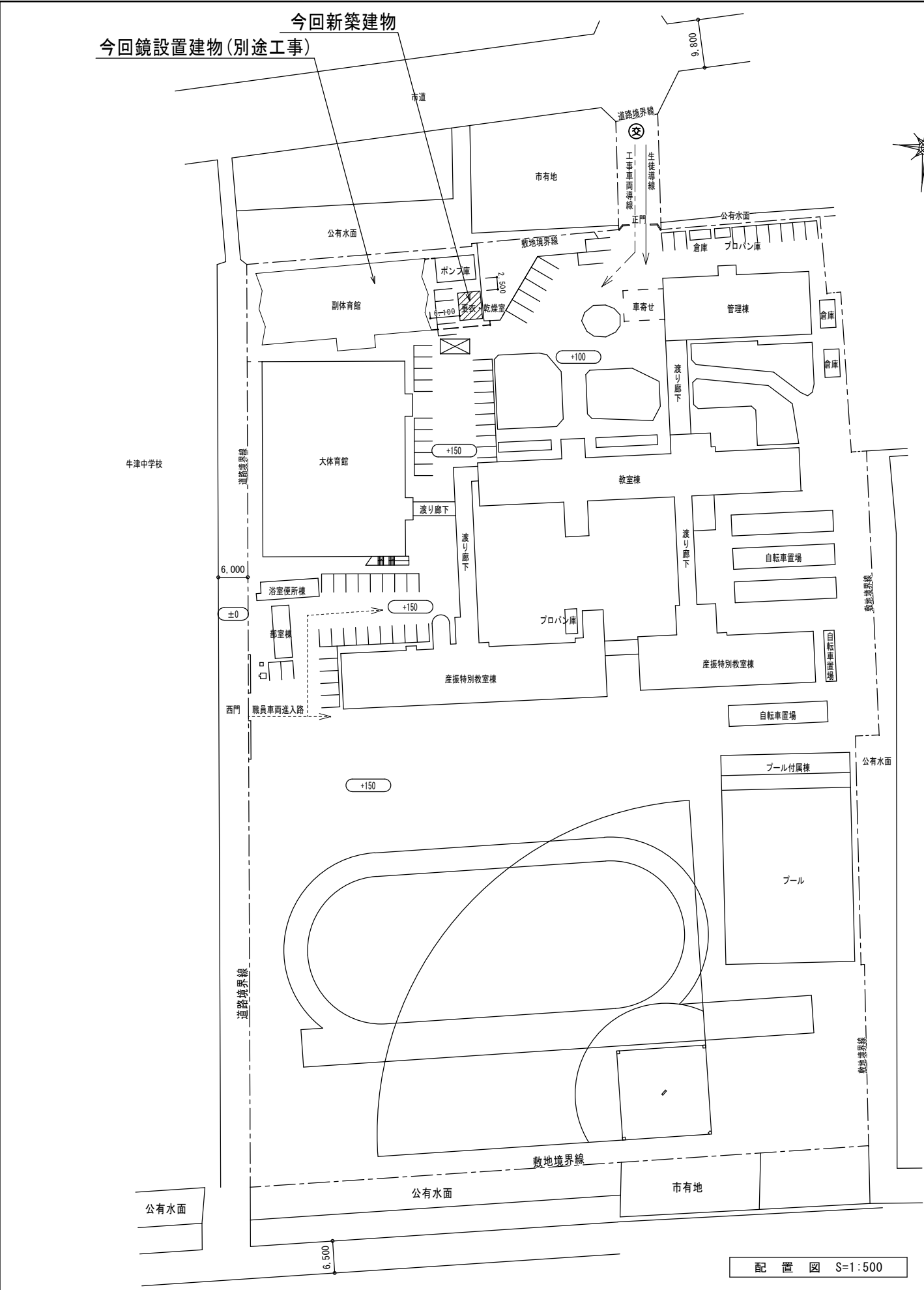
一級建築士 登録 第 号

図番号  
PA—14

鉄筋工事	⑤	① 鉄筋の種類	<table><tr><td colspan="3">(5.2.1) (表5.2.1)</td></tr><tr><td>鉄筋の種類</td><td>呼び名 (mm)</td><td>備考</td></tr><tr><td>・SD295</td><td>D10, D13</td><td></td></tr><tr><td>・SD345</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	(5.2.1) (表5.2.1)			鉄筋の種類	呼び名 (mm)	備考	・SD295	D10, D13		・SD345			・			6 機械式継手	使用箇所 (5.5.2) ・ 図示による ( ) ・	8 各部配筋	各部配筋 (5.3.7) ※ 図示による (構造関係共通図 (配筋標準図)) ・ ( 図示 )	コンクリート工事	①	コンクリートの種類及び強度	<table><tr><td colspan="2">(6.2.2)</td></tr><tr><td>普通コンクリートの設計基準強度</td><td>設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>) 適用箇所</td></tr><tr><td>・21</td><td></td></tr><tr><td>・24</td><td></td></tr><tr><td>・27</td><td></td></tr><tr><td>・18</td><td></td></tr></table> 構造体強度補正值 (S) ※標準仕様書表6.3.2による ・  軽量コンクリートの設計基準強度 (6.2.2) 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) 適用箇所 ・24 ・  スラブの位置 (cm) (6.2.4) (表6.2.2) 打込み箇所 基礎、基礎梁、土間スラブ 柱、梁、スラブ、壁 所要スラブ 15、18 18	(6.2.2)		普通コンクリートの設計基準強度	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) 適用箇所	・21		・24		・27		・18		②	レディミキストコンクリートの種類	種類 (6.2.1) (表6.2.1) ※Ⅰ類 ・Ⅱ類  レディミキストコンクリート製造工場の選定 (6.4.1) ※ 全国生コンクリート品質管理監査会議に 適 マークを承認された工場 ・ 図示	③	セメント	種類 (6.3.1) (表6.3.1) ・普通ポルトランドセメント又は高炉セメントA種、シリカセメントA種 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/g以下、かつ28日目で402J/g以下のものとする。 施工箇所 ( ) ・高炉セメントB種 ⑥ 施工箇所 ( ) ・フライアッシュセメントB種 ⑥ 施工箇所 ( ) ・	④	骨材	7日シリカ反応性による区分 (6.3.1) ※A ・B	⑤	混和材料	・混和剤 (6.3.1) 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4) (a)による ・ ・混和剤 (6.3.1) 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4) (b)による ・	⑥	気乾単位容積質量	普通コンクリート (6.2.3) (6.10.2) ・2.3t/m <sup>3</sup> 程度 ・  軽量コンクリート ・1種 (1.8～2.1t/m <sup>3</sup> ) ・2種 (1.4～1.8t/m <sup>3</sup> )	7	軽量コンクリート	種類 (6.10.1、2) (表6.10.1) ・1種 ・2種  適用箇所 ・ 図示による ( ) ・  スラブ ※21cm ・	8	マスコンクリート	セメントの種類 (6.13.1～2) ・高炉セメントB種 ⑥ ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種 ⑥ ・シリカセメント  適用箇所 ・ 図示による ( ) ・  混和材料 (6.13.2) ・混和剤 混和剤の種類 ・標準仕様書6.13.2(2) (7)による ・ ・混和材 混和材の種類 ・標準仕様書6.13.2(2) (4)による ・  スラブ ※15cm ・ ( ) (6.13.2)  構造体強度補正值 (S) ※標準仕様書表6.13.1による (6.13.2) ・
	(5.2.1) (表5.2.1)																																																										
	鉄筋の種類	呼び名 (mm)	備考																																																								
・SD295	D10, D13																																																										
・SD345																																																											
・																																																											
(6.2.2)																																																											
普通コンクリートの設計基準強度	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) 適用箇所																																																										
・21																																																											
・24																																																											
・27																																																											
・18																																																											
共通事項				工事名	牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事（プレファブユニット工事）	縮尺	－	一級建築士 登録 第 号	PA-15																																																		
				図面名	特記仕様書（建築構造）その2	設計	令和7年10月																																																				

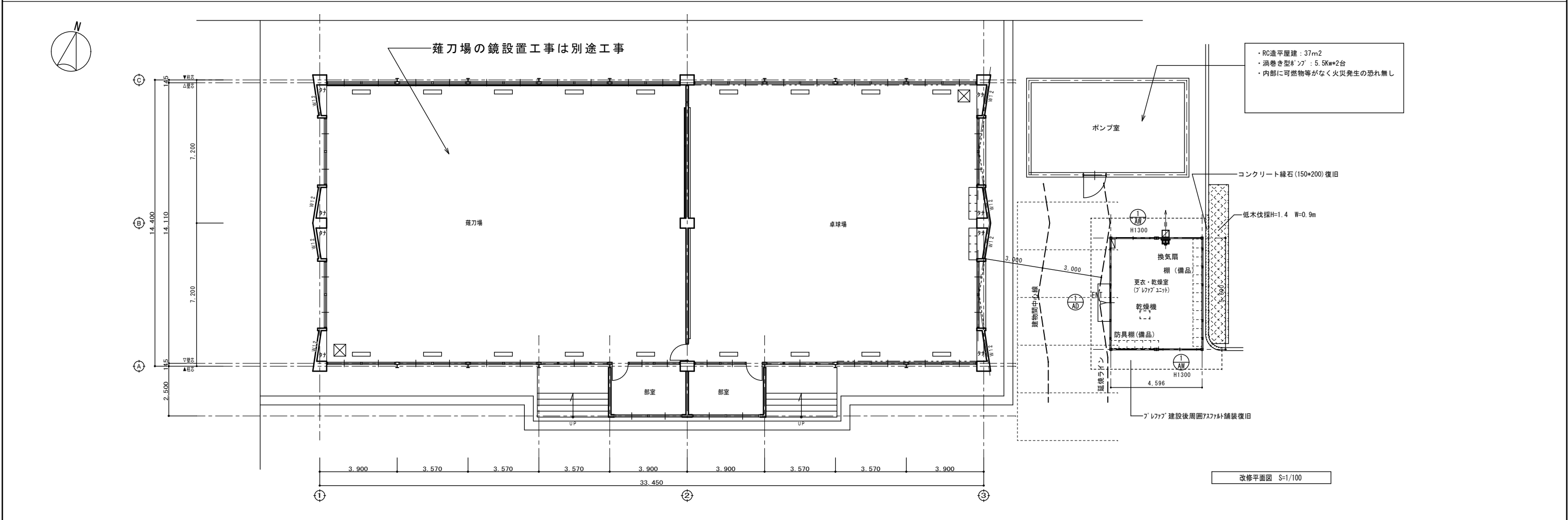
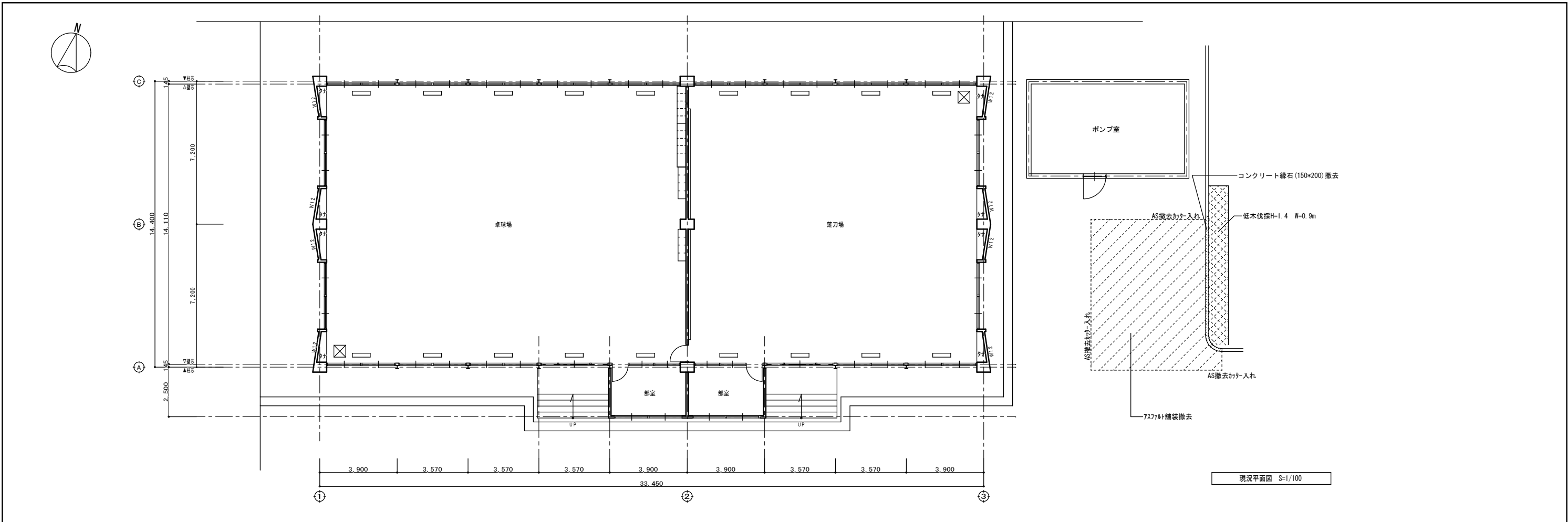








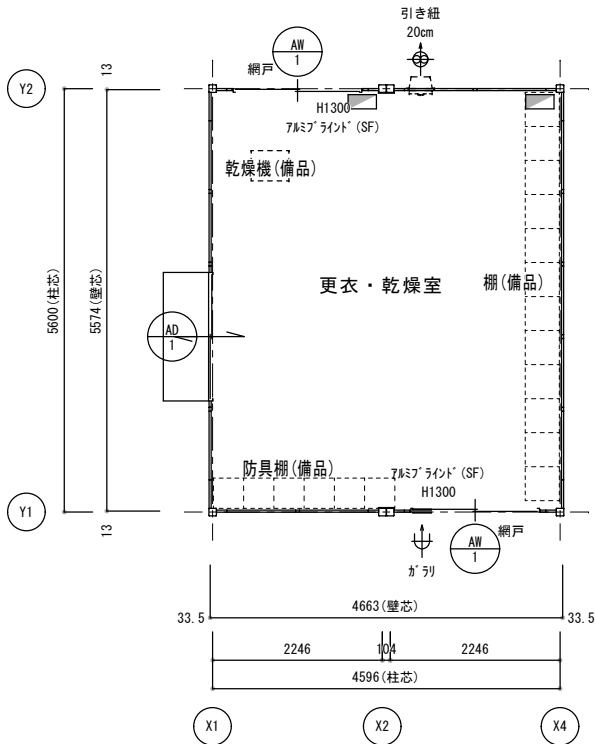
※ 指 定 仮 設				特 記 事 項
記号	名 称	仕 様	数 量	※ 仮設計画においては学校側と協議すること。 ※ 交通誘導員は大型工事車両の誘導の安全誘導に従事し、車の出入りの状況に応じて配置すること。 ※ 現場の状況から仮設計画の変更が必要な場合は、設計変更の対象とする。
— —	プラスチックフェンス	H=1.0m	15.0 m	
⊗	交通誘導員	B	2 人	
⊗	ラフレンゲレン	10 t	1 台	

	設 計 変 更 年 月 日		工 事 名	牛 津 高 等 学 校 副 体 育 館 鏡 整 備 そ の 他 工 事 ( プ レ フ ァ ブ ユ ニ ッ ト 工 事 )	縮 尺	A1:1/500 A3:1/1000	1 級 建 築 士 登 録 第                  号	図 面 番 号  PA / 18
	1 回      年      月      日			図 面 名	配 置 図 ・ 附 近 見 取 図	設 計		
	2 回      年      月      日							
	3 回      年      月      日							

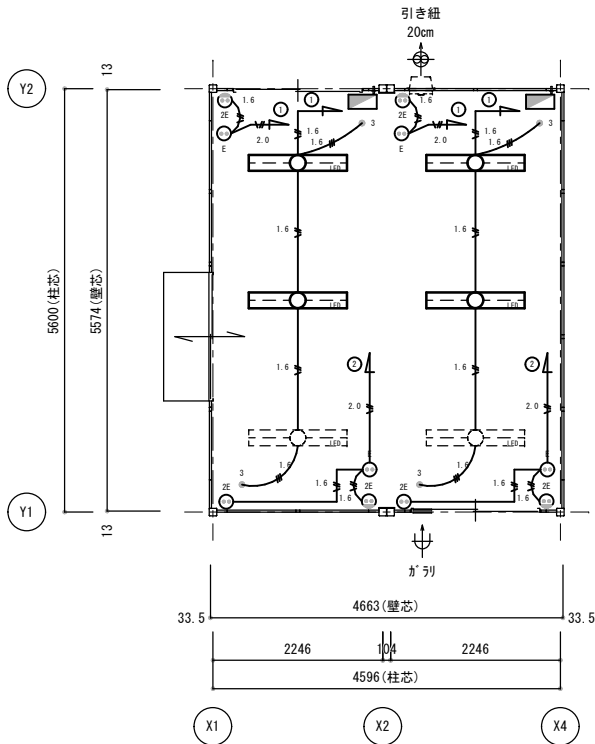


	設 計 変 更 年 月 日	工 事 名 牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)	縮 尺 A1:1/100 A3:1/200	図 面 名 現 況 平 面 図 ・ 改 修 平 面 図	設 計 年 月	1 級 建 築 士 登 録 第 号	図 面 番 号 A 13
	1 回 年 月 日						
	2 回 年 月 日						
	3 回 年 月 日						

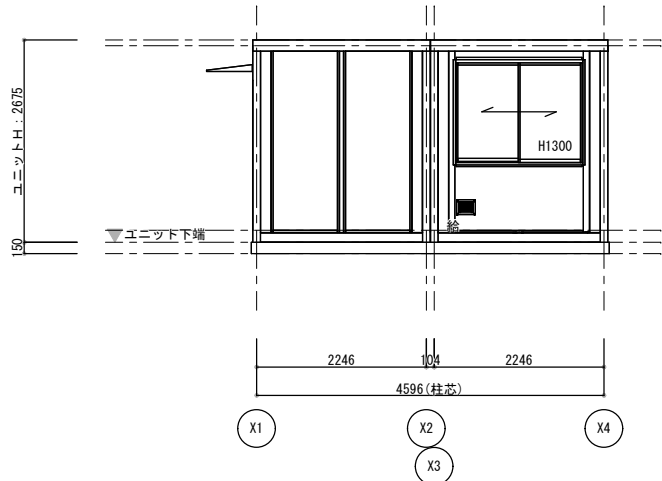
■ 外部仕様		
名称	仕様	色
屋根	仕上:金属折板 t=0.5 断熱材:スレンフォーム t=25 (不燃NM-8697)	シルバー-N5.5
雨樋	軒樋:銅板t=1.6+塗装 縦樋:なし	Vn' 緑色
庇	コンパ'イ' - W1760	
外壁(複合パ' 緑)	外部仕上:カー'銅板t=0.27 断熱材:スレンフォームt=25 (不燃NM-8697)	Vn' 緑色
	内部仕上:カー'銅板t=0.27 (不燃NM-8697)	Vn' 緑色
塗装	鉄部見え掛かり:錆止め ー液型' 杉樹脂下塗り塗装	
外部建具	7' 緑サッシ	シルバー-
■ 建物面積		
建築面積	25.99 m <sup>2</sup>	
1階床面積	25.99 m <sup>2</sup>	
延べ床面積	25.99 m <sup>2</sup>	
■ 換気給気設備 凡例		
記号	名称	
	20cm換気扇 引き紐スイッチ	樹脂製フード
	給' 5' 155x205給気口	ステンレス製給' 5' 防虫網付



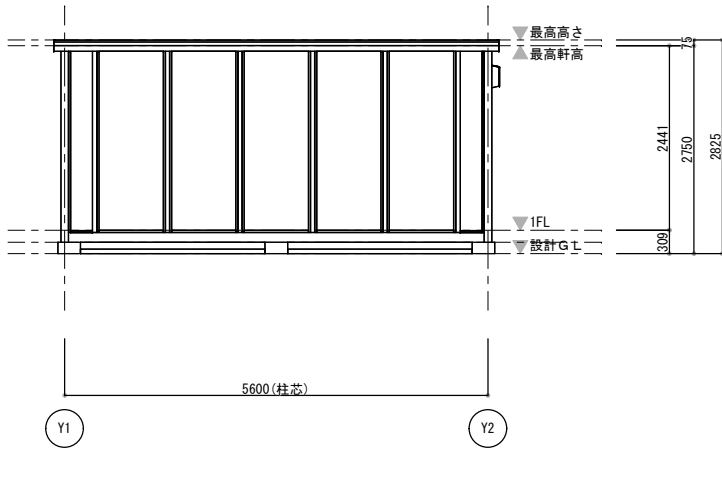
1階平面図



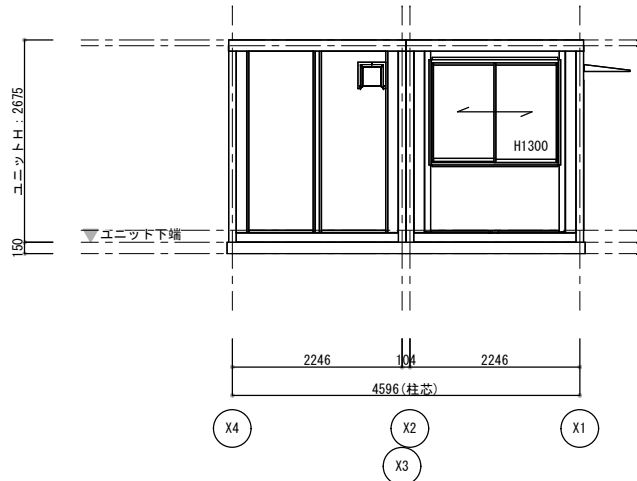
1階電気設備図



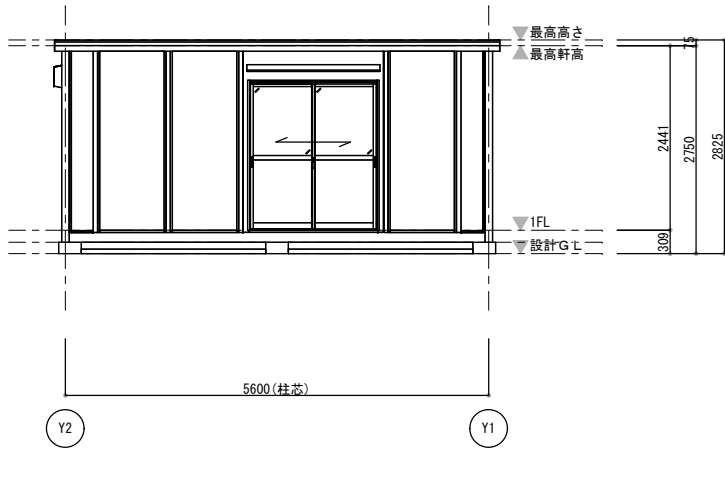
Y1通り立面図



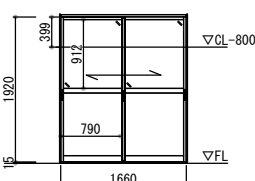
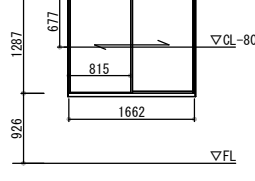
X4通り立面図












Y2通り立面図

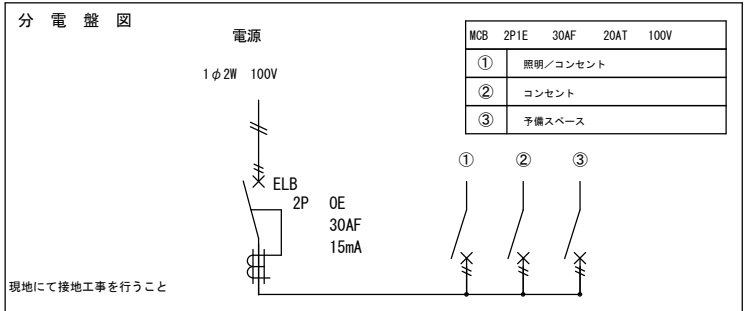


X1通り立面図

AD 1	引戸S	AW 1	引違窓(H1300)S
			
材質: 7' 緑 給' 5': 型板4/7' 緑複合板		材質: 7' 緑 給' 5': 型板4	
金物: サムライダ' - 鎌式' ッド' ボ' ルト		金物: クレセント錠	
備考:		備考: 網戸	

凡 例		
名称	記号	仕様
照明器具		LEDベースライト
分電盤		別図に示す
天井付けコンセント		15A×口数 125V
壁付けコンセント		2口の合計15Aまで 125V
スイッチ		3路スイッチ 300V 10A
電 線		VV-F1.6-3C ただし 1Cは7-ス線
		VV-F2.0-3C ただし 1Cは7-ス線
		VV-F1.6-3C
		VV-F1.6-3C

各コンセント・照明は7-ス付です。



回路②の7-ス線は、途中で回路①の7-ス配線に合流。

7-ス線は、全て1.6mmの物を使用。

※三協フロンティア 1F:CT-54J(S)2連棟同等品とする。

設計変更年月日
1 回 年 月 日
2 回 年 月 日
3 回 年 月 日

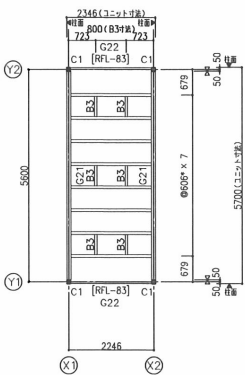
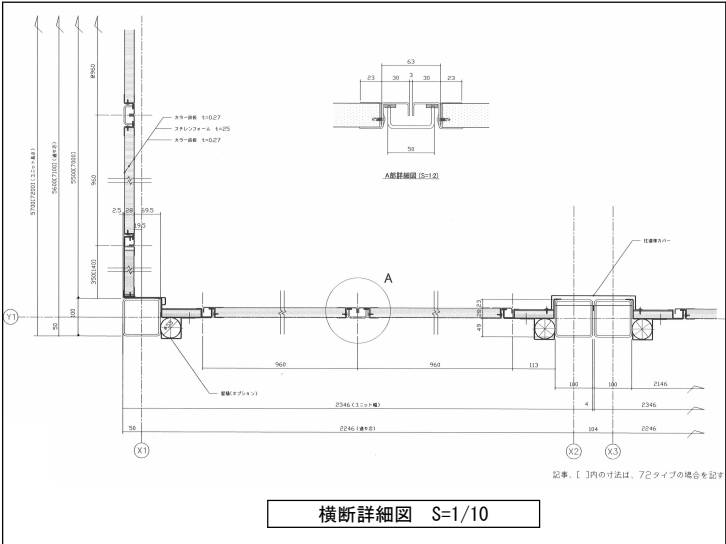
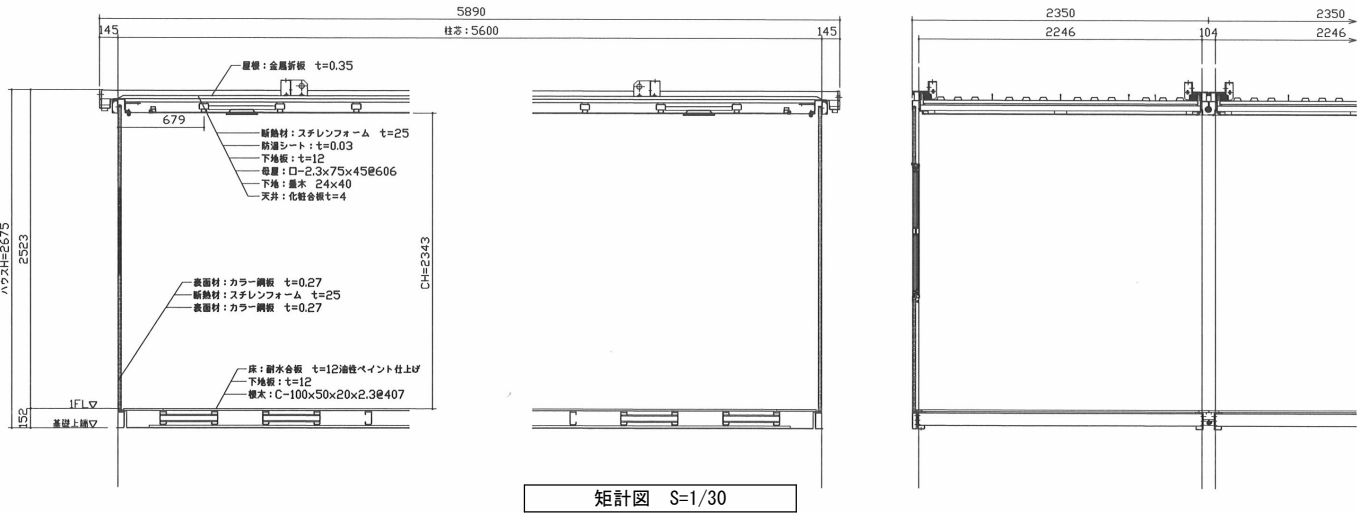
工事名 牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)	縮尺 A1:1/50 A3:1/100
図面名 プレファブユニット図	設計 年 月

縮尺 A1:1/50 A3:1/100	1 級建築士登録 第 号
---------------------------	--------------

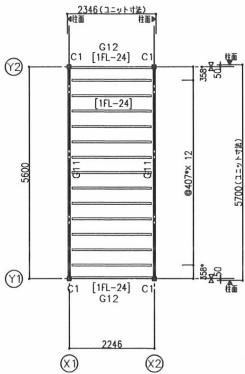
図面番号 PA 18
------------------



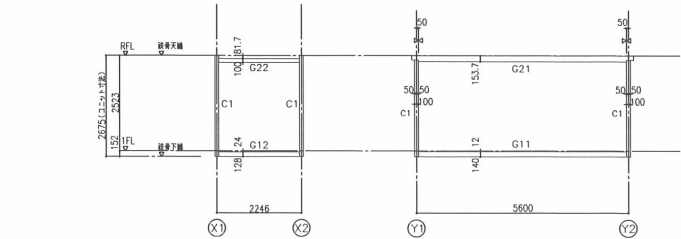
ハ ウ ス 仕 様	
規 模	L5600×W2246×H2675
構 造	軽量鉄骨造（ラーメン構造）
屋 根	金属折板（立平葺） $t=0.35\text{mm}$
天井断熱材	スチレンフォーム $t=25\text{mm}$
天 井	化粧合板 $t=4\text{mm}$
床	合板貼り $t=12\text{mm}$
壁	サンドイッチパネル（表面材：カラー鋼板 $t=0.27\text{mm}$ 断熱材：スチレンフォーム $t=25\text{mm}$ ）
電 気	照明器具 製作時期による 主幹：ELB 30A 分岐：MCB 20A×2



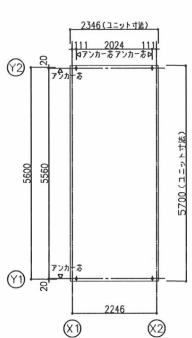
R階床梁伏図（見上げ図） S=1/100  
特記なき限り下記による。  
1. 通り芯＝柱芯とする。  
2. D<dは大梁ジョイント位置を示す。  
3. 梁天端レベルは、RFL±0  
但し〔 〕内の数値は梁天端レベルを示す。  
4. 記入なき小梁符号はB2とする。  
5. Xは小梁芯の寸法を示す。



1階床梁伏図（見下げ図） S=1/100  
特記なき限り下記による。  
1. 通り芯＝柱芯とする。  
2. D<dは大梁ジョイント位置を示す。  
3. 梁天端レベルは、1FL±12とする。  
但し〔 〕内の数値は梁天端レベルを示す。  
4. 記入なき小梁符号はB1とする。  
5. Xは小梁芯の寸法を示す。



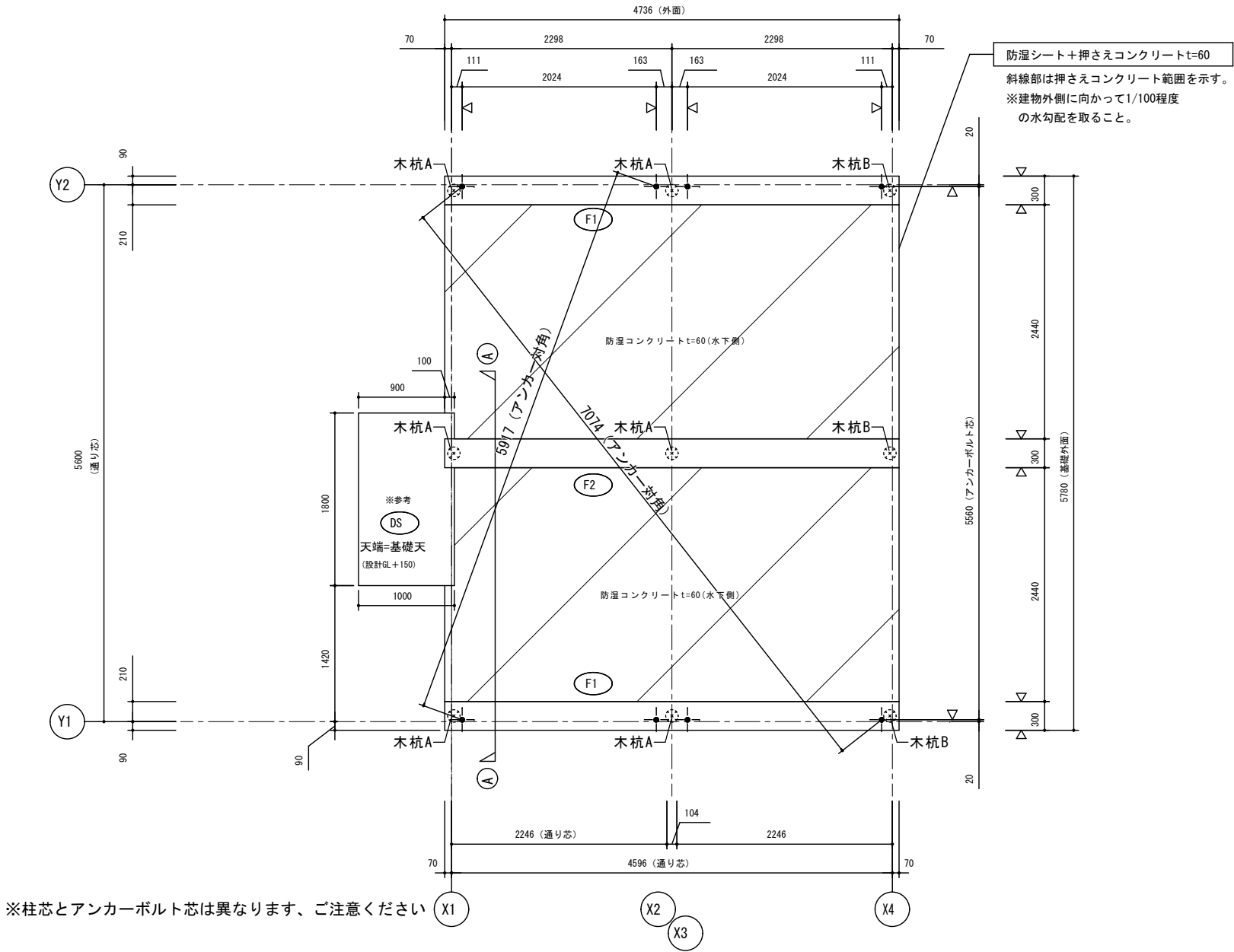
(Y1) (Y2) 通り軸組図 S=1/100  
特記なき限り下記による。  
1. 通り芯＝柱芯とする。  
(X1) (X2) 通り軸組図 S=1/100  
特記なき限り下記による。  
1. 通り芯＝柱芯とする。  
2. D<dは大梁ジョイント位置を示す。



アンカーボルト位置 S=1/100

鉄骨部材リスト				
※部材は、生産年代により異なるAタイプとBタイプがあります。2014年1月以降に生産されたハウスをBタイプ、それ以前をAタイプとします。				
部 位	符 号	部 材	継 手	備 考
柱	C1	□-100x100x3.2	—	材質はSTKR400とする。
大 梁	G11	[ -140x46.8x3.2	剛接合 C/E → 9 4-M16 (H.T.B)	母材の材質はSGH400とし、 ガセットプレートの材質は SS400とする。
	G12	Aタイプ [ -128x50x3.2 Bタイプ [ -125.2x50x3.2	剛接合 剛肉溶接	
	G21	[ -153.7x50x3.2 E -13.2	剛接合 C/E → 9 2-M16 (H.T.B)	母材の材質はSGH400とし、 ガセットプレートの材質は SS400とする。
	G22	[ -100x45x3.2	剛接合 剛肉溶接	
小 梁	B1	C-100x50x20x2.3	剛肉溶接	材質はSSC400RはSGH400とする。
	B2	Aタイプ □-75x45x2.3 Bタイプ C-69x50x12x2.3	剛肉溶接 剛肉溶接	材質はSTKR400とする。 材質はSSC400RはSGH400とする。
	B3	Aタイプ C-60x30x10x2.3 Bタイプ ① C-60x30x10x1.6	剛肉溶接	材質はSSC400とする。
		Bタイプ ② L-80x27x2.3		

参考図



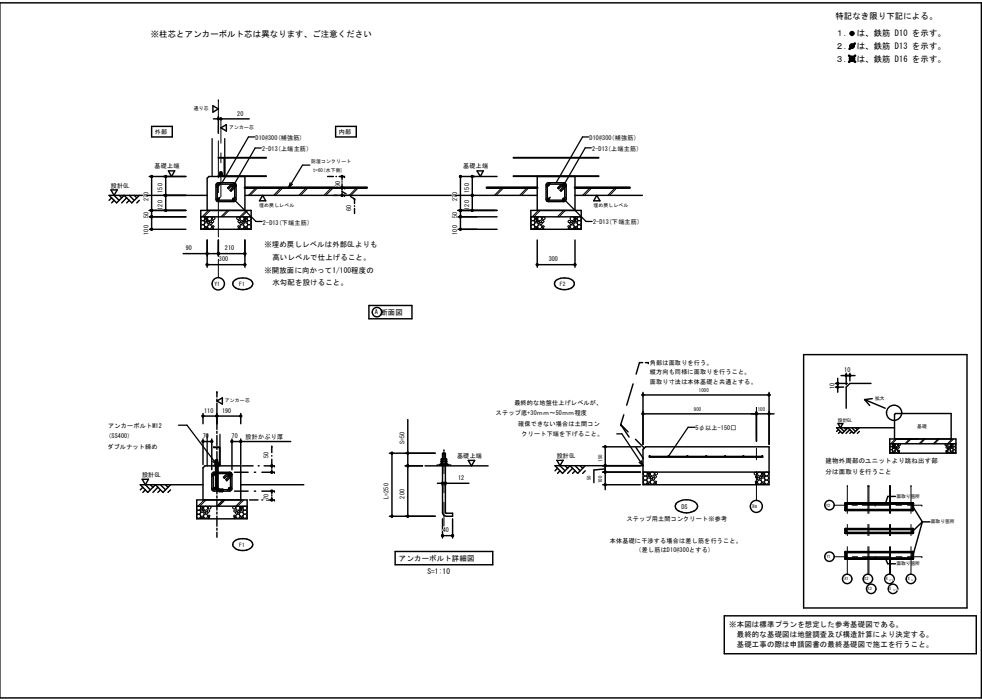
基礎伏図 (見下げ図)

- 特記なき限り下記による。
1. 基礎天端は設計GL+150とする。
  2. 基礎下端は設計GL-120とする。
  3.  $\Phi$  はアンカーボルトを示す。
  4. 特記なき  $\nabla$  はアンカーボルト芯を示す。
  5. 特記なき  $\blacktriangledown$  は基礎面を示す。
  - 6.

※木杭リスト (杉)	
木杭A	Φ130*4.5m (防腐防蟻処理)
木杭B	下杭Φ120*5.5m + 中杭Φ120*5.0m + 上杭Φ150*3.0m (防腐防蟻処理)

レベル精度	2mm以内
アンカーピッチ精度	4mm以内
対角精度	±3mm

\* 地盤に高低差がある場合現場監督者に確認のこと。



長期許容支持力  $q_a = 30 \text{ kN/m}^2$

使用材料

1) コンクリート

設計基準強度  $F_c = 18 \text{ (N/mm}^2\text{)}$

品質基準強度  $F_q = 18 \text{ (N/mm}^2\text{)}$

調合管理強度  $F_m = 18 + mSn \text{ (N/mm}^2\text{)}$

※調合管理強度は品質基準強度に構造体強度

補正値 (mSn) を加えた値とする。

・普通セメントの構造体強度補正値 (mSn)

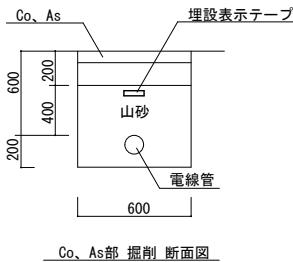
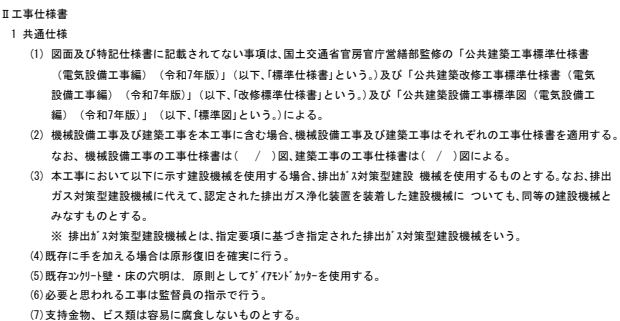
平均気温	$8 \leq \theta$	$0 \leq \theta < 8$
mSn	+3	+6

※暑期中間におけるmSnは+6とする。

2) 鉄筋 SD295

※本図は標準プランを想定した参考基礎図である。  
最終的な基礎図は地盤調査及び構造計算により決定する。  
基礎工事の際は申請図書の最終基礎図で施工を行うこと。

	設計変更年月日		工事名 牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事（プレファブユニット工事）	縮尺 A1:1/30 A3:1/60		図面番号 PA 20
	1回 年 月 日					
	2回 年 月 日					
	3回 年 月 日					
			図面名 基礎伏図・基礎詳細図	設計 年 月	1級建築士登録 第 号	



凡 例

PB332  
☒ PB300° x200 SUS・WP

100φ  
▨ はつり工事 100φ-150 床、壁

☒ 埋設標柱 鉄製

	設計変更年月日	工事名 牛津高等学校副体育館鏡整備その他工事(プレファブユニット工事)	縮尺 A1:1/100 A3:1/200		図面番号 PE 01	
	1回 年 月 日					
	2回 年 月 日		図面名 電気設備 現況平面図・改修平面図	設計 年 月		1級建築士登録 第 号
	3回 年 月 日					